

天使が教えてくれたこと

弘前市立第三天成小学校

大湯日花里

対象作品／宮川ひろ著 『天使のいる教室』 童心社

私が今回、小学校最後の読書感想文として選んだのは、宮川ひろさんの『天使のいる教室』です。この本は私が二～三年生くらいの時に、国語の教科書の一番後ろのページで紹介されていたものです。あらすじを読んで、「読んでみたいな」と思っていました。運よく図書室で見つけて借りたものです。この本は、小児がんを患っているあきこちゃんと、砂糖パンが大好きな美人のサトパン先生率いる一年二組の子供たち、そして子供たちの成長をかけから見守る人形の水木哲平くんのあたたかく、楽しく、そして切ない八ヵ月間のお話です。実はこの話は実話をもとにして描かれたそうで、読み終えた時に「こんな悲しい物語が私の全く知らないところで本当に起きていたんだな……」と思いました。

私が特に心に残った場面は二つあります。まず一つ目は、サトパン先生が、あきこちゃんのクラスの担任になる！と初めて知った日のことです。今までとはちがう状況のクラスを持つことに不安を感じる先生に夫が「奇跡っていうのは、お

ころんだよ。教室が樂しければ、奇跡はおこるさ。おこさんだよ。」と励ました。奇跡なんか絶対におこるわけない…と落ちこんだり悩んだりする前に、まずはまわりを明るくして、頑張ればいつだって誰にだつて奇跡は生まれるんだなと深く思いました。二つ目は、カップラーメンのところです。お母さんがあきこちゃんのラーメンをつくるのに失敗してしまい、あきこちゃんもお母さんも大泣きしてしまったのです。私はあきこちゃんはラーメンづくりに失敗したことに泣いているのではなくて、日々の辛い治療や副作用、学校に行けない悲しみに耐えきれなくて泣いたんだな…と思います。優しいあきこちゃんはつとガマンして、泣けるタイミングが欲しかったんだと思います。お母さんも、娘の辛そうなところを毎日見ています。それでも心配させないように泣かないなんて、心が強いし、とっても娘思いのお母さんなんだなと思います。

あきこちゃんは、十二月十日、午後九時にお母さんのうで

の中で「あっこ星」となつて天にのぼつていきました。私はこの本を読んで、「悲しい」という気持ちだけではなく、「あたかい」気持ちになりました。一年二組のやさしい思い、サトパン先生の子供への愛、あきこちゃんの「みんなといつしょにいたい！」という気持ち…本当にこの本は深くて、読み終わった後にじんわり感動するものでした。中の文章は、

全て水木哲平くんという人形目線で書かれていて、めずらしけれど分かりやすく、より心に響きました。人形の気持ちも分かります。

私もあきこちゃんやそのまわりの人たちのように、あきらめない気持ちや、人を思いやる気持ちをもつともつと深めていきたいです。